

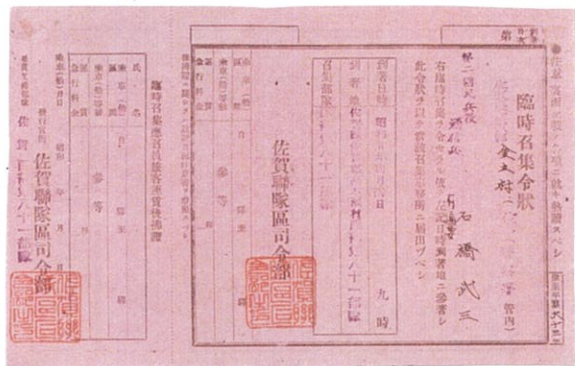


取材場所 平和祈念展示資料館
東京都新宿区西新宿2-6-1 新宿住友ビル33F TEL.03-5323-8709

78年前の戦争も 知っていますか?

赤紙 来たる

戦争で多くの兵士が必要になったとき、たくさんのお男の人を集めて兵士にする国からの命令書「赤紙」



↑赤紙 (正式には臨時召集令状とい)

戦地へと送られる男の人たち

戦地へと送られる男の人たちは、必ず戦争に行かなくてはなりません。戦争はいやだったのです。



↑赤紙をもらった兵士

戦地へ行く兵士に願いを込めて...

女の人がつくった千人針

千人針とは、4人の女性が赤い糸で一針ずつ布をぬって玉留をつくり、兵士に送ったお守りです。玉留で作ったのは、「たまをとお守り、鉄砲の弾よけのお守りだからなのです。また、トラは中国の言い伝えによると「遠くまで行って家族を想い帰ってくる」のだそうです。多くの願いが千人針に込められています。



千人針→

抑留者の「コート」の袖を助けた

命を助けた。展示されている袖のないコート。このコートは、抑留者の命を助けた。袖を黒いペンで交換しました。



↑袖のないコート

ワンピースのひみつ

これは、満州(今の中国東北部)で生まれた4歳の女の子のためにお母さんが作ったワンピースです。材料は布のおむつ。戦争が終ると、お母さんは日本に戻れなかった間に死んでしまった下の赤ちゃんが使っていたものでした。

抑留者の(一日の)食事は、黒パン一枚とスプーンだけ。寒いシベリヤで半袖になるのは危険でした。このパンが抑留者の命を助けました。



↓黒パンとスプーン、抑留者



お母さんは、初めて日本に連れて帰る女の子に、せめてきれいな服を着せてあげたいと思い、布おむつを使っておワンピースを作ったのでした。



↑白樺で作ったスプーン

多くの抑留者がスプーンを手作りしました。生きて帰ることができた証として、大切にしていたそうです。資料館には、たくさんのおスプーンがありました。

新聞を 書いた感想!

去年も新聞をつくりましたが、今回もむかししいと思えました。タイトルを考えたこと、文章を短くまとめることが特にむかししか、たどたどし。この新聞がみなさまの参考になればうれしいなと思います。夏休み、楽しんで下さいね。